

身体拘束最小化の取り組み

オールフリー (身体拘束最小化チーム) の概要

背景

患者の尊厳を守るため身体拘束最小化の必要性が叫ばれる中、2024年度の診療報酬改定では「医療分野での身体拘束の縮小・廃止」は最重要論点の1つに位置づけられた。その結果、今回の改定より入院料通則において身体的拘束の最小化の取組を要件化することが決まった。その一方で、奈良県ではかねてより「面倒見のいい病院」指標に『身体拘束最小化に向けた取り組みを組織的に実施すること』を項目として設定していたが、当院は令和3年度のスコアにおいて他院より著しく低い評価を受けていた。

この結果を受け、当院医療安全管理委員会では令和5年度の医療安全目標を『身体拘束最小化』とし、令和5年6月に『身体拘束について考える』と題してディスカッション形式の研修会を開催、翌月には『身体拘束最小化 強化月間』を設定した。その翌月には強化月間を通じて実施した取り組みを病棟毎にまとめた発表会を企画した。

3ヶ月にわたって実施した取り組みの効果が、実臨床にも活かされ、文化として根付きつつある一方で、これを一過性のものにならないためにも医療安全管理委員会で議論を重ね、この度、専門のチームを発足する運びとなった。

構成メンバー

- ・ 医局 (副院長・医療安全管理委員会 委員長)
- ・ 看護部(一般病棟・療養病棟・回復期リハビリテーション病棟より各1~2名)
- ・ リハビリテーション部(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士より各1~2名)
- ・ 薬剤部(医薬品安全管理責任者)
- ・ 医療安全管理室 (医療安全管理者)
- ・ 病歴管理室

活動日

定期病床ラウンド 月1回の委員会 年2回の院内研修

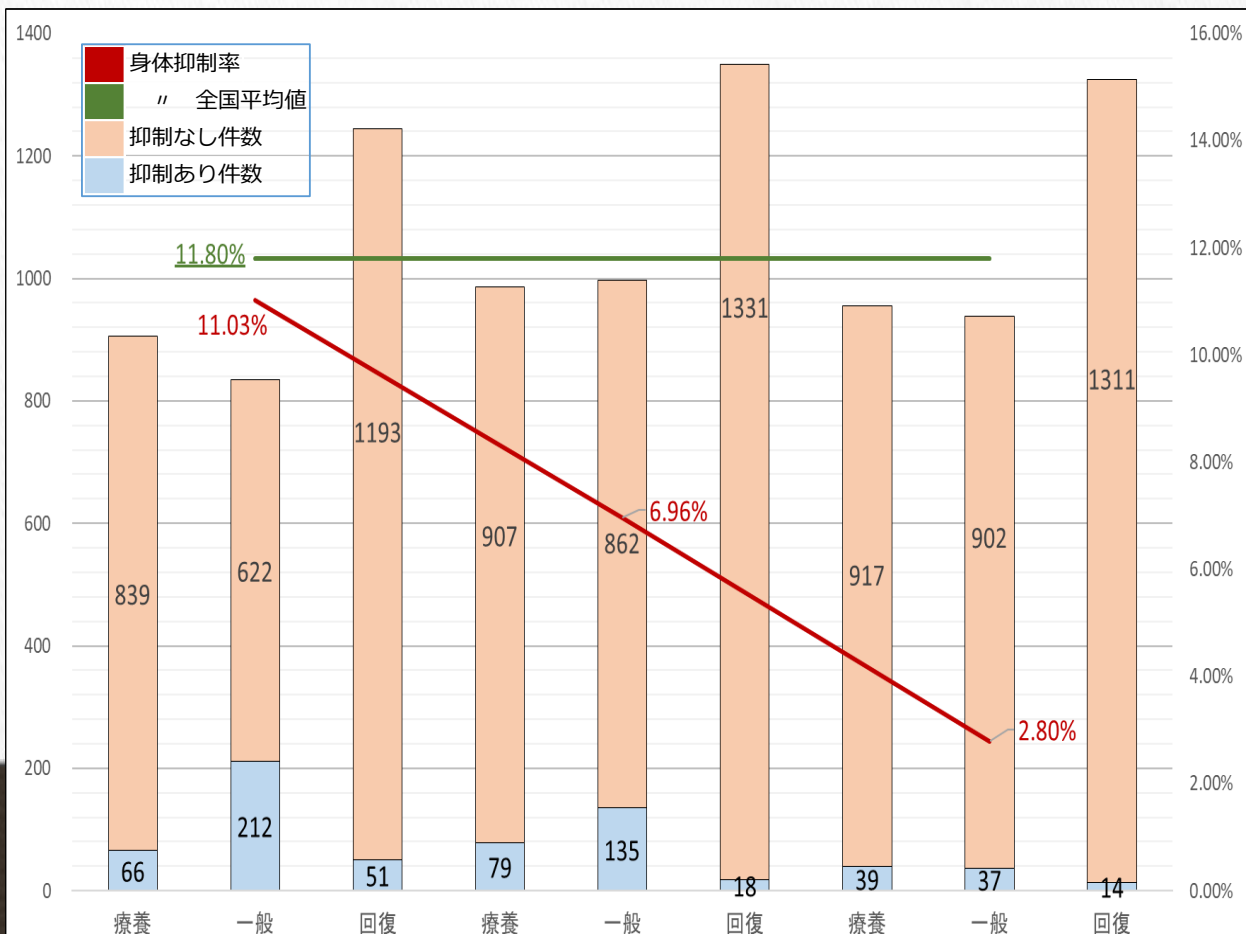
活動内容

- ・ 身体拘束 (行動制限) に関するデータの収集・集計
- ・ 研修会の開催
- ・ 身体拘束 (行動制限) 基準の見直し
- ・ 事例検討会
- ・ 最小化のための代替手段の提案 などなど

身体拘束最小化の取り組み

身体拘束率の推移

令和8年5月7日



	2月			3月			4月		
ミトン	4	6	1	6	6	1	4	6	3
ヘルメット	0	0	1	0	0	2	0	0	0
抑制帯	0	0	0	1	1	0	0	1	0
介護服	0	1	1	0	0	0	0	0	0

◆傾向◆

身体抑制率は令和7年4月以降は月平均13.5%となる。9月からは減少傾向となるが令和8年1月より再び増加傾向で2月は全国平均の11.8%に並ぶこととなった。3月より減少に転じた。

身体拘束最小化の取り組み
オールフリーの活動風景

